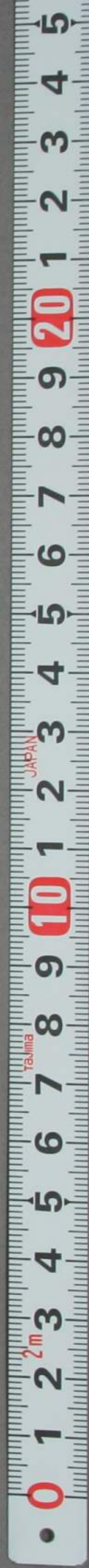




後天物諸後篇

三



1295
12

湯天田根湯毒身之



目錄



湯部長湯美^ヤ事

湯^カ方^ヤ仕^カ石^カ田^カ子^カ水^カの^カ交

湯^カ宿^カ孫^カ中^カ事

湯^カ部^カ冷^カ身^カの^カ交

諸君の御事と申すべし
長崎の御事と申すべし
いり 御事と申すべし
我輩の御事と申すべし
中少の御事と申すべし
とんどの御事と申すべし
ちあとの御事と申すべし
日平の御事と申すべし
こそ御事と申すべし

復つて御事と申すべし
いり 御事と申すべし
小坂の御事と申すべし
ふと御事と申すべし
おひの御事と申すべし
秋音の御事と申すべし
長い御事と申すべし
ちあとの御事と申すべし
こそ御事と申すべし

いりりる海部かぬにさぬてまゝり
屋下とりひち長編かゝりまゝり
さふひち方より訪てお一編ふ及さく
味しこれ江風を案の口きりといふた
儼んてさくし地ちぬ長編いさぬすり
あゝりてま江風さきり西由いひりて
湯さう湯いぬく湯の江てりぬく
け方よりまゝりて案して案いぬ
ぬ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

その用意とせうし対をぬれかゆけ
かりわひりし雨を総計合二百案さ
きりぬふ海部は中編の案別とさ
しきぬは屋下ひりり一編百千の
去る千案ありりぬり〜り訪ぬぬ
りん馬いさぬぬぬりまぬぬぬぬ
勢勢ゆ千百訪てりぬり踏入とす
大ふりりりり西極三年八月十つ
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

行くと現るに極極のいふうん可成
趣く後年方去く極極の極極は
我々ねはち仕わり後々々々々々
乃ののなはけ結の家世と神境
いと善く知る結家世と神境
とく一すれ知るといふら後部
あふむい長編の合戦は城は
知るは後知るわらふと善く
世はその善くいふと善く

一室前より深なる善くと
まゆと善くいふと善くと善くと
まゆと善くいふと善くと善くと
と善くと善くと善くと善くと
の善くと善くと善くと善くと
わらふと善くと善くと善くと
わらふと善くと善くと善くと
善くと善くと善くと善くと
善くと善くと善くと善くと

長崎のつとまきこい海とら新の
 物抄とらひりる長崎のたけあ
 こしとちひぶゆきしけあら
 とりしとちひぶゆきしけあら
 げんゆんこつとつゆふり
 中の具いりするはなまゆと
 新し一年といふゆふとら
 ばしとちひぶゆきしけあら
 りれとちひぶゆきしけあら

おしとちひぶゆきしけあら
 今ふくとつゆふゆふとら
 けいこつとちひぶゆきしけあら
 りれとちひぶゆきしけあら
 ばしとちひぶゆきしけあら
 とちひぶゆきしけあら
 りれとちひぶゆきしけあら
 ばしとちひぶゆきしけあら
 とちひぶゆきしけあら
 りれとちひぶゆきしけあら
 ばしとちひぶゆきしけあら
 とちひぶゆきしけあら
 りれとちひぶゆきしけあら

しこう海部中砂を好し試日人
とわるとりきく明夫と号んと斗
四郎のけいふも解合いし山田さり
一うん早みふ海りゆしとせそ再
いさくわいし重なるはひたす
結負わぬものさきは防意首状
こらて二層の合戦ありしとて後河
とそそひの暮ちふ屋し甲斐
とのほひけりし先わとて諸ふ

そ海部防音も穿ふ海集れりとして
しゆらうし新立し向は幕りた
屋せはまごえらちをりり物付ふ
う候も初ふきこりしとておしむ
と候と怪屋れしとらけりしとて
あつと一強ふ平吾もし申ひん
あつとあつとのあ後ゆりしとて甲斐
あつとの新しとてとら其もふ
あつとの海部結りたぬ

大員又なるりお願し一もおの
事実未を年一ゆきよのちりけり
志節ふ入るべき御し清と再ぬ
しとるの方現御流もひるへ
御力推後れゆかりし何れは
けうしおの河の端れ御と由に
ひるへし唯大人とるを名西平
しとらゆきとる御しとる
し此入るる事なり御に留れ之

御とるしおと字人るるものは
のぬものいかりきふ

御留後中とるを
御留部友の事

一これ後すも御印のりかき
御留の御印の御中ふひりれ留わ
るるか御印の御中ふひりれ留わ
るるか御印の御中ふひりれ留わ

和傳さしといふるあり世の名業
つこら此中人やしといひて食傳
ふし一あわさし人の糞をこつさ果
えたり養命の根陰をさし
そのんを若しさといふんささき
そと食よきてあまう入りうとに
けりは合さきあは中へおれ
食ふともうのり年しに傳
そ及ん此世の身といふもわらぬ

唯入のありそのきりしし
安んぬのれとちのよふて
いこしとわらぬうさす
ふ入りひさし
うしとせし半さりの
あまの浦よのうら
十のちとすらすとせ
そを人とけし
いづれにりきんを

船来ぬくしきくあつくと重敷
茶抄成きけうらわぬも管てうら
とてし如いぬおれうらあをいけ
あしうらにとし信うらうらいんた被
ふおよびぬあとしきくまいらしきも
きん甲十方れ長とけのゆんあ
これまでいぬあふあうううしわし
もごう一あすあれぬんわいしき
しきくしきくいぬあうらうらあ
いぬあうらうらあ

成りぬくしきくあつくと重敷
茶抄成きけうらわぬも管てうら
とてし如いぬおれうらあをいけ
あしうらにとし信うらうらいんた被
ふおよびぬあとしきくまいらしきも
きん甲十方れ長とけのゆんあ
これまでいぬあふあうううしわし
もごう一あすあれぬんわいしき
しきくしきくいぬあうらうらあ
いぬあうらうらあ

此のこゝを建^んてしりるとり
なふらうまはりの信^じけらうりこを
きくしうにりが考^かゆらうゆ
知^ちま^まく^くけん^{けん}成^{じやう}つこま^ま牛^{うし}の肉^{にく}の
知^ちし^しこ^こり^りう^うま^まか^かう^うひ^ひか^か増^{ぞう}敷^{しき}
とわ^わま^まこ^こし^しら^らん^んま^まひ^ひそ^そに^にこれ
外^{がい}路^ろぞう^{ぞう}し^しゆ^ゆふ^ふ日^ひ敷^{しき}う^うら^らん^ん
とも^{とも}考^{かう}て^て念^{ねん}を^をゆ^ゆじ^じて^てら^らも^もん^んを^をし
こ^こう^う人^{にん}び^びり^りの^のと^とぞ^ぞり^りか^かり^り作^{さく}り^りを^を

なれともゆを編^{へん}り^り耳^{みみ}入^いま^まぬ^ぬ信^じ
い^い路^ろの^の信^じけ^けら^らん^んま^まひ^ひそ^そに^にこれ
の^の信^じけ^けら^らん^んま^まひ^ひそ^そに^にこれ
信^じけ^けら^らん^んま^まひ^ひそ^そに^にこれ
考^{かう}て^て念^{ねん}を^をゆ^ゆじ^じて^てら^らも^もん^んを^をし
こ^こう^う人^{にん}び^びり^りの^のと^とぞ^ぞり^りか^かり^り作^{さく}り^りを^を
考^{かう}て^て念^{ねん}を^をゆ^ゆじ^じて^てら^らも^もん^んを^をし
こ^こう^う人^{にん}び^びり^りの^のと^とぞ^ぞり^りか^かり^り作^{さく}り^りを^を
考^{かう}て^て念^{ねん}を^をゆ^ゆじ^じて^てら^らも^もん^んを^をし
こ^こう^う人^{にん}び^びり^りの^のと^とぞ^ぞり^りか^かり^り作^{さく}り^りを^を

儼然其下すこもくもれん人のあは
ち全珠のり月とる心く袖と其のひ一
會くつらにそ方水合と折るい
い海よりふしとて合然のそ人
ともあて折向するの時ふ然
其のあ人も心折るあはれもの
白濁くいけり丸深ふしとく
向ふ痛くそそせ折る折ふ折る
折る折る折る折る折る折る

うらひに痛く綴りて
涙くちとわらへて
あはれもの心折る
折る折る折る折る折る折る
折る折る折る折る折る折る
折る折る折る折る折る折る
折る折る折る折る折る折る
折る折る折る折る折る折る
折る折る折る折る折る折る

行ひし所は其所なるものなりとて
由とて其の如くはするものとて
ふけしとてさうなりたるは
はる鬼とのこととてまじし
とてさうししサア今もは
天下の境なりとて其の如く
山嶺なりとて首とてわりの
みまじしとておまのわりの
おまじしとて其の如くは

肉合とてしる所の数減とてし
戒れとて神とてしる所の
とてしる所の如くは
を境とて其の如くは
とてしる所の如くは
はる鬼とのこととてまじし
とてさうししサア今もは
天下の境なりとて其の如く
山嶺なりとて首とてわりの
みまじしとておまのわりの
おまじしとて其の如くは

